

ごみのリサイクル率アップのカギは紙ごみ

問まちづくり支援課 ☎ 6726

本市は、紙ごみやプラスチックごみのリサイクル率が県平均より下回っています。紙ごみの正しい分別は、リサイクル率の向上や二酸化炭素（CO₂）の排出量削減、焼却処理の減による焼却施設の延命化につながります。

この機会に、紙ごみについて見直してみませんか。市民の皆さんのご協力をお願いします。



紙ごみの種類

市で収集している紙ごみは、①紙製容器包装 ②紙パック ③段ボール ④新聞紙 ⑤雑誌・チラシの5種類に分別されます。中でも、紙製容器包装は種類が多く分かりにくいいため、燃えるごみとして捨てられがちです。



意外とリサイクルされていない紙製容器包装とは

紙製容器包装とは、**紙**マークのついている紙製の容器や包装のことです。

例えば、●紙箱・紙製トレイ・・・お菓子や食品の箱や紙皿、ティッシュペーパーやたばこの空き箱など

- 台紙・・・購入時のワイシャツの厚紙など
- 紙袋・包装紙・・・紙製の袋、割り箸の袋など

※汚れているものや防水加工されたものはリサイクルできませんので、燃えるごみに出してください。



紙ごみをためておきたくない人へ

月1回の紙ごみの日以外にも出せます！

- 町内会、PTAなどの資源集団回収
- スーパーなどの店頭回収
- 古紙リサイクルセンター
(問) 榊遠藤商店 ☎ 234850

オフィス町内会をご存知ですか？

事業系の紙ごみを無料で回収します

県では、事業所から出る古紙を無料で回収し、リサイクルするネットワークづくりを進めています。詳しくはお問い合わせください。

(問) オフィス町内会事務局 (榊遠藤商店 ☎ 234850)

「がんの時代を生ききる」～十和田市立中央病院から皆さんへ～

第7回 放射線治療 トモセラピー (全8回)

当院では、がんの放射線治療を行っています。一口にがん治療といっても、手術後の再発予防や根治を目指した治療から、治療は望めないものの痛みやむくみを抑えて、これまで通りに過ごせる期間を延ばすための治療など状況によりさまざまです。

最近では、一昨年のノーベル賞で話題となった免疫に関わる薬の効果を高めることが注目され、放射線照射後に使う薬も保険適用されるようになってきました。治療後に発生する放射線障害を減らすため、1日10分程度を1～2カ月かけて少しずつ照射することを繰り返す「通常分割照射」という方法を多く用いますが、肺や肝臓などの特定部位での早期の小さながんでは、放射線をかける範囲を絞って短期間に大量の放射線をかけることができます。今回はこの「定位照射（ピンポイント照射）」を紹介します。

当院にあるトモセラピーは、毎回治療の前に画像を撮影し、がんの場所を確認するIGRT技術と、がんの形に合わせて放射線の強さを変化させることができるIMRTという技術を利用して、がんの部分に絞って大量の放射線を比較的安全に照射することができます。がんの場所や大きさによって、一回で安全に照射できる放射線の量は異なりますが、最短1週間程度で治療を終えることができる場合もあり、治療の際の苦痛はほとんどありません。主な副作用として、放射線性肺炎があるため治療後も定期的な経過観察が必要です。

放射線治療を希望する際は、まずは主治医にご相談ください。

(文責：中央病院 放射線科
診療部長 目時 隆博)



高度放射線医療機器
トモセラピー